

価値・この世の秩序の逆転：あなたは（主なる神）「貧しい者を救い上げ、高ぶる者を引き下ろす」

詩編 18 編は、第一部救い (2-31)、第二部王の救い (32-51) と区分できますが、今回は 17 節から第一部の終わり 31 節までを読みましょう。苦難に会うすべての信仰者が苦難と救いを理解・共感できるように一般的に叙述したものです。驚くべき神顕現の中で、「奈落の激流」(5)、出エジプトの際の経験「主よ、あなたの叱咤に海の底を現わし、あなたの息に世界はその基を示す」にあるような大風と洪水の威力がイスラエル人の脅威であったことを思い起こします。大雨、氾濫、津波などで命と仕事を失った人たちのことを思い起こしましょう。皆さんは海や川、雨など水に関して恐ろしい経験をしたことがありますか？

・「大水の中から引き上げてくださる」干ばつ・水不足も危機ですが、豪雨、河川の氾濫はイスラエル人には恐怖でした。また海（地中海）から進んだ文化が伝わり、彼等を抑圧したことから「海」も恐怖の対象でした。救いは、それゆえ、「大水から引き上げられる」経験として表象されます。神は「飛び込んで浮き輪を与え、伴泳してくださる」などのイメージもあるでしょうが、ここでは、「高い天から御手を遣わす」と言う。天と地とは異なる高みですが、これは権利・権力を意味するより、地とは異なる処にいますゆえに、地にある人を苦難から救済できる根拠としての距離を意味しています。そしてその距離を埋める「御手」を伸ばして outreaching hand くださるのです。主イエスは神の伸ばされた「み手」です。

・主は支え、助けである 信仰者に対抗する敵は確かに力があり、勝ち誇っています。そして、自分は弱いのです。しかし、主はわたしを救い出して下さる。ローマ 8：31-35. ここでは、神または主が徹底して「主語」です！「広い所」(lammerhāb)、これはすでに何度か言及した（「ラーハブ」狭さ・窮地の反対（詩編 4:2）で、「余地」を与えることです。主が私を導き出し(brought me out)、主が私を救い出し(delivered me)、主が私を喜んでくださった (delighted in me) と告白しています。

・主の前の「相対的正しさ」私たちは神の恵みを信じる信仰によって義とされています。そのことを承知して、信仰者は相対的な義に生きる努力をします。主は私の義に報いてくださるのです。私の手の清さ、無垢 (tāmim blamless) であろうとする、罪(mēāwōnī)から身を守ること。これは主なる神との対話の中でのことであり、人間同士の中で誇ることはありません。「報いてくださる」、「応じて返して下さる」、「応じて返して下さる」。人は悪を行うとき、神に目をつぶってもらう、どこか神の裁き（ミシュパート）を前に置かないものではないでしょうか？

・対応する・応答する神 神は人間の態度に相応されます。慈しみ(へセド)に生きる人に慈しみ、無垢には無垢、清い人には (nābār) 清く、心の曲がった人には背を向けられます。恐ろしいことです！しかし、この世の価値や地位が逆転するのです。「あなた」と呼びかけられる主は、「貧しい民を救い上げ、高ぶる目は引き下ろされる」。ルカ 1:51~3. ハンナの歌、マリアの歌です（サムエル上 1:5、7、マタイ 23:12、ルカ 14:11）。神が高ぶる者に強いお方として相応されれば、その人は低くされ、神がへりくだる者にさらに低いお方として相応されたら、人は栄誉を与えられるのではないのでしょうか？

・主は盾である 主は消えかかった灯を輝かし（これは「牧会」の働きの一つ）、闇を照らされ、敵を追い払い、城壁を超える力を与えて下さいます。主の「道」「仰せ」は完全で、火に精錬されています（実証されている）。主は御もとに身を寄せる人の「盾」(māgēn) であり、どのような矢からも剣からも護って下さるのです。